

研究・調査報告書

報告書番号	担当
140	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of type 2 diabetes mellitus in Japanese: a systematic review. 日本人における飲酒と2型糖尿病のリスクについて：体系的論評	
執筆者	
Seike N, Noda M, Kadowaki T	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Asia Pac J Clin Nutr.2008;17:545-551.	
キーワード	
糖尿病、アルコール、日本人、BMI	
要 旨	
<p>目的： 日本人における飲酒と2型糖尿病のリスクについて検討を行う。</p> <p>方法： MEDLINE のもとに「飲酒」「日本人」のキーワードを「糖尿病 (または耐糖能異常)」とクロスリンクさせて論文の検索を行った。ピックアップする論文及び報告は、前向きコホート研究、無作為介入試験、メタ解析、体系的論評に限定した。これらの検索は2007年6月に行った。</p> <p>結果： 7つの前向きコホート研究がヒットした。既に我々はやせている男性 (BMI\leq22.0kg/m²)、中等量から多量の飲酒をしていることが糖尿病の危険因子であることを報告している。ある一つの論文では、低BMIの男性で多量飲酒が糖尿病のリスクである一方、高BMIの男性では中等量の飲酒が糖尿病のリスクを下げると報告していた。他のある研究では、低BMIの対象者では毎日飲酒することが糖尿病のリスクであり、中程度のBMIの対象者ではリスクを下げると報告していた。しかしある研究では、飲酒と糖尿病のリスクはU型 (飲酒量の少ない群と多い群でリスクが高く、その間の飲酒量ではリスクが低い) になると報告していた。他の3つの研究 (2つは男性を対象に、1つは女性を対象にしたもの) では、BMIという区分では対象者を分けておらず、飲酒は糖尿病のリスクを高めると報告していた。</p> <p>結論： 比較的低BMIである多くの日本人男性において、飲酒は確立された糖尿病の危険因子である。</p>	